

入院時・退院時薬剤管理サマリーに関する 薬薬連携研修からみた入退院連携の 実態・課題：アンケート調査

演題番号
スペース

○服部裕吾¹、近藤一成¹、關口佑子²、東垂水裕和²、小串興平²、小山なつの³、多田純平³、
松崎貴志³、齊藤太紀⁴、西崎百合恵⁴、櫻井学⁴、泉和孝⁵、久保田充明⁵、日向彰¹

¹横浜市旭区薬剤師会、²横浜旭中央総合病院薬剤部、³聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院薬剤部、
⁴神奈川県立がんセンター薬剤科、⁵横浜市瀬谷区薬剤師会

背景・目的

近年、薬剤管理サマリーおよび薬剤適正使用のための施設間情報連絡書（以下、サマリー）を活用した入退院時のシームレスな連携が重要視されている。横浜市旭区・瀬谷区では、入退院の連携は各施設独自に行われており実態は明らかではない。そこで2025年より初めて入退院連携強化のため各施設の活動共有・意見交換を目的とした薬薬連携研修を実施したため報告する。

方法

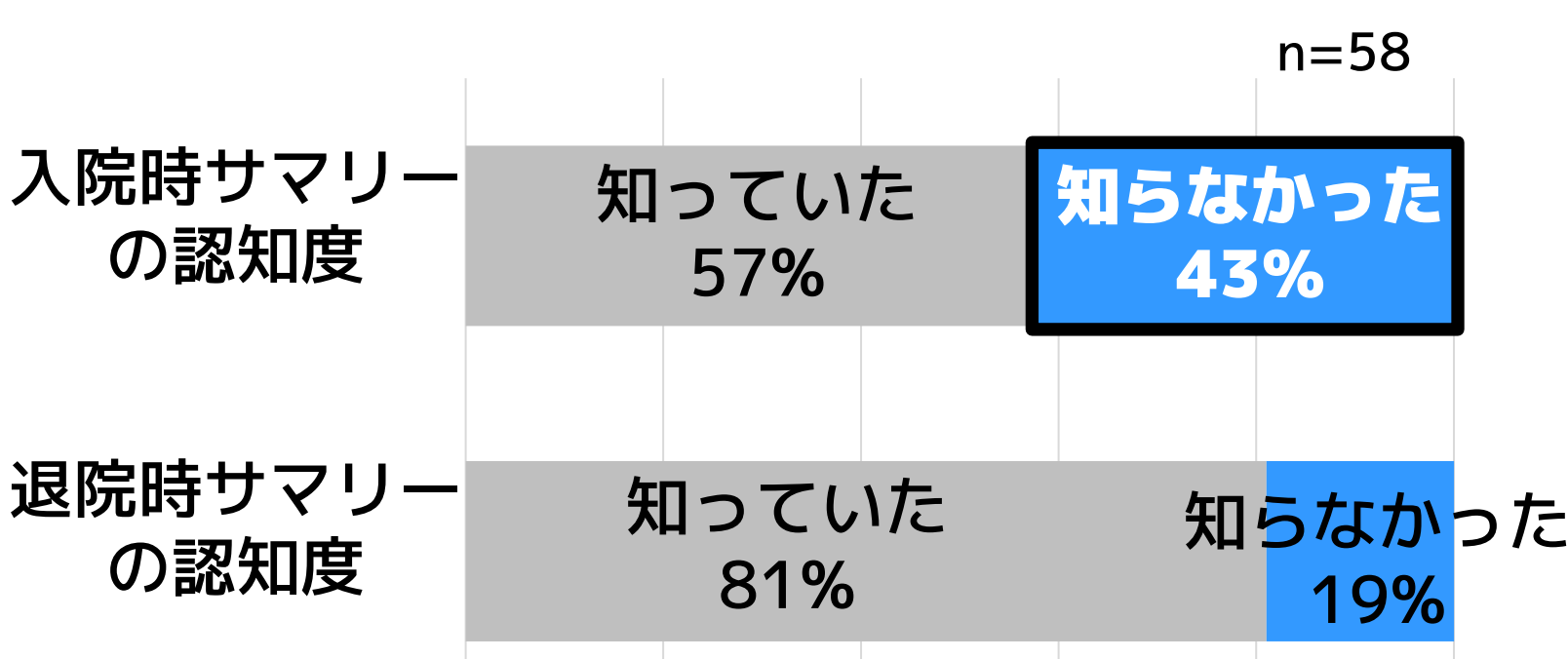
横浜市旭区・瀬谷区薬剤師会、地域の急性期3病院共催で、サマリーを活用した入退院の連携に関する薬薬連携研修（以下、研修）をWEB形式で開催した。薬局1施設、病院2施設から3講演を実施後に、総合討論で応需した時の心情・需要がある情報の共有を行った。研修に参加した薬剤師を対象にアンケートにて研修の有益性・理解度、サマリー実施状況・課題因子を調査した。

結果

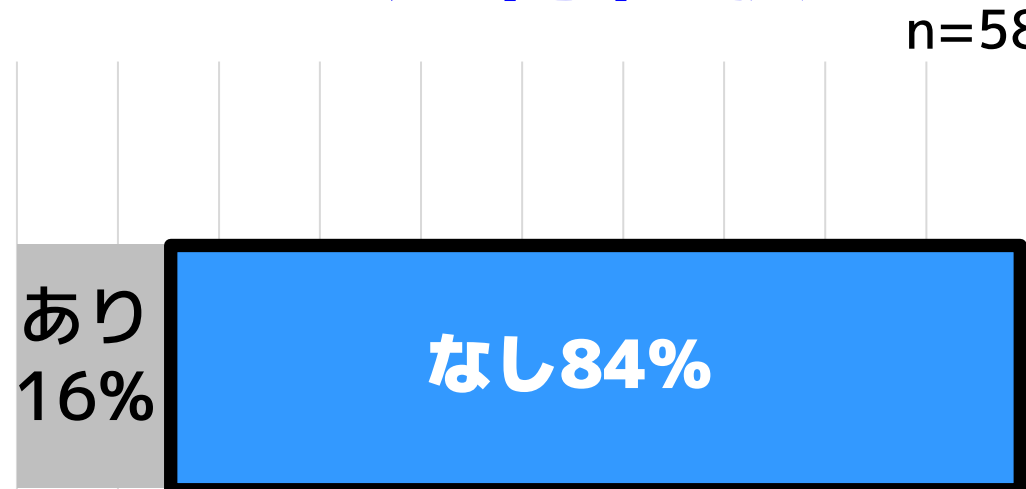
研修参加者108名のうち84名よりアンケートの回答・同意を得た。

薬局薬剤師58名の回答結果

サマリーの認知度

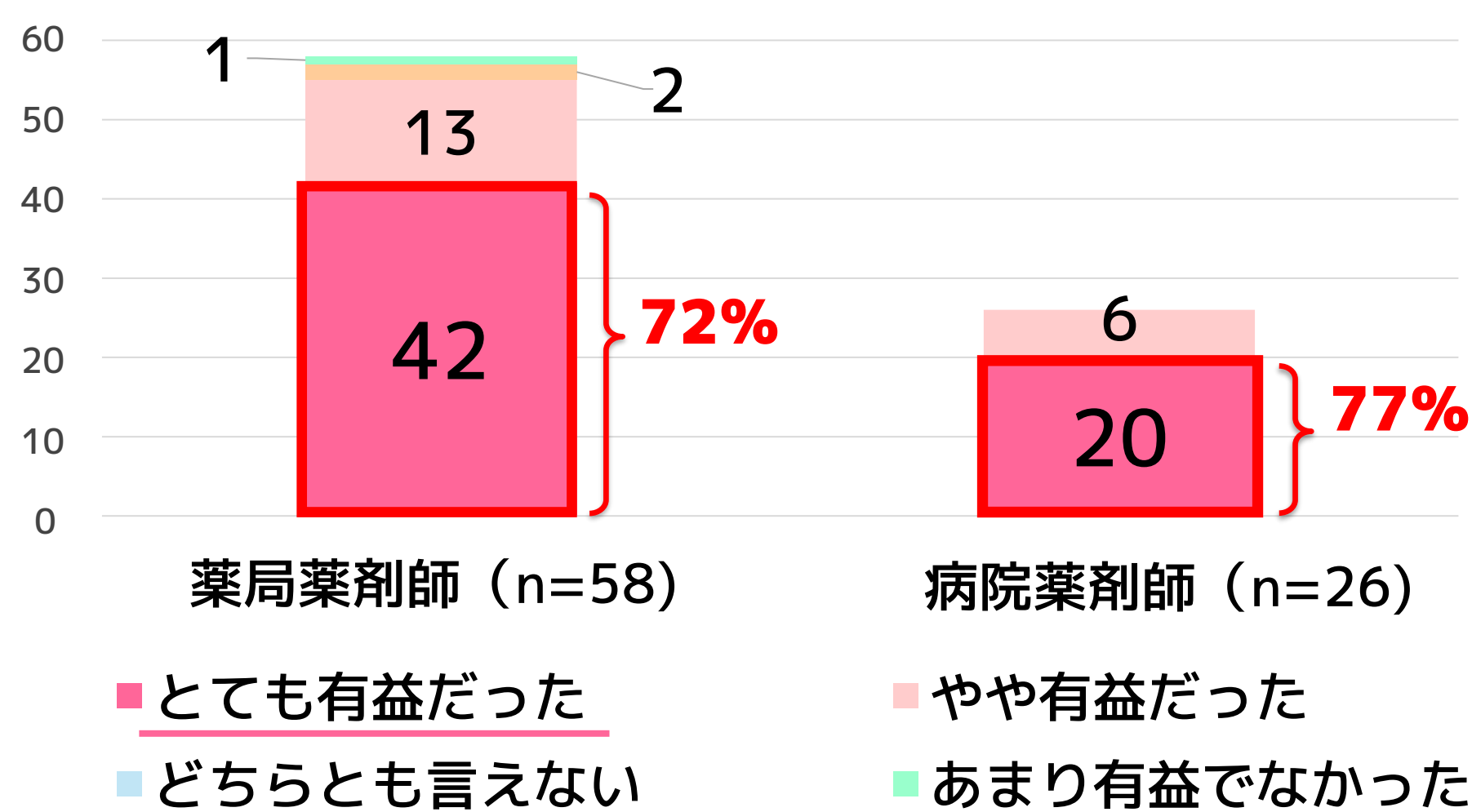


過去1年の入院時サマリー送付経験

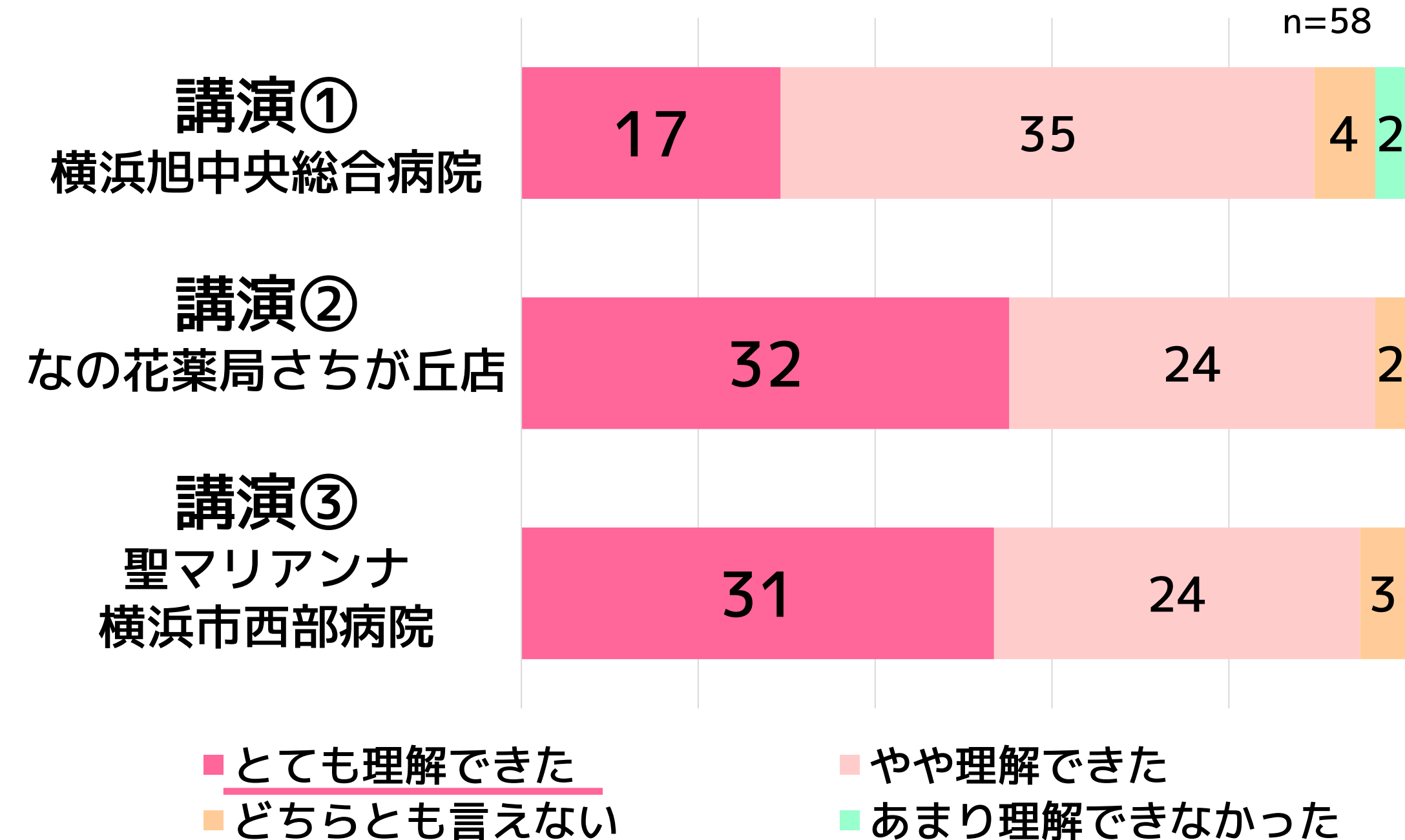


薬局薬剤師58名、病院薬剤師26名の回答結果

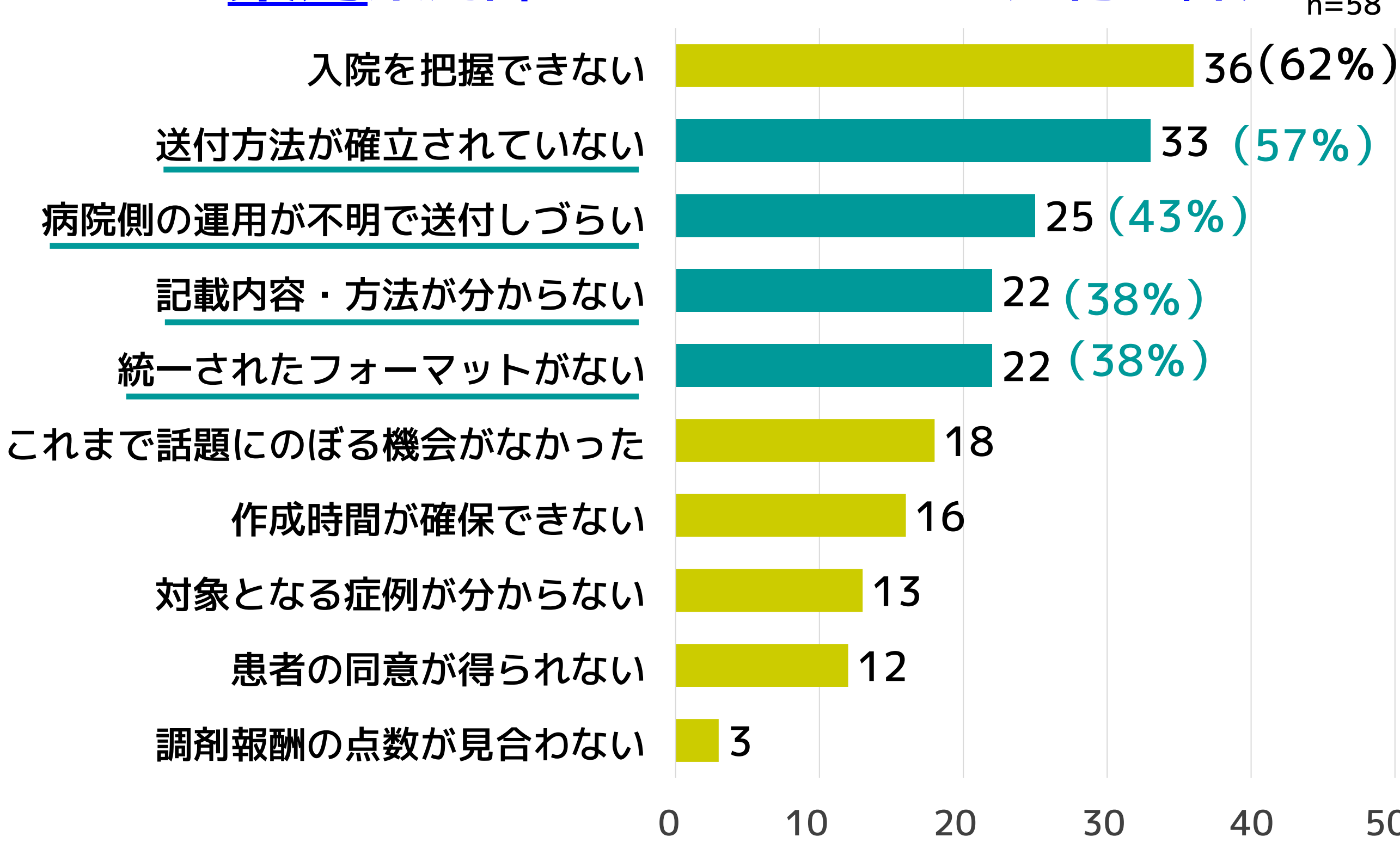
本研修は有益でしたか



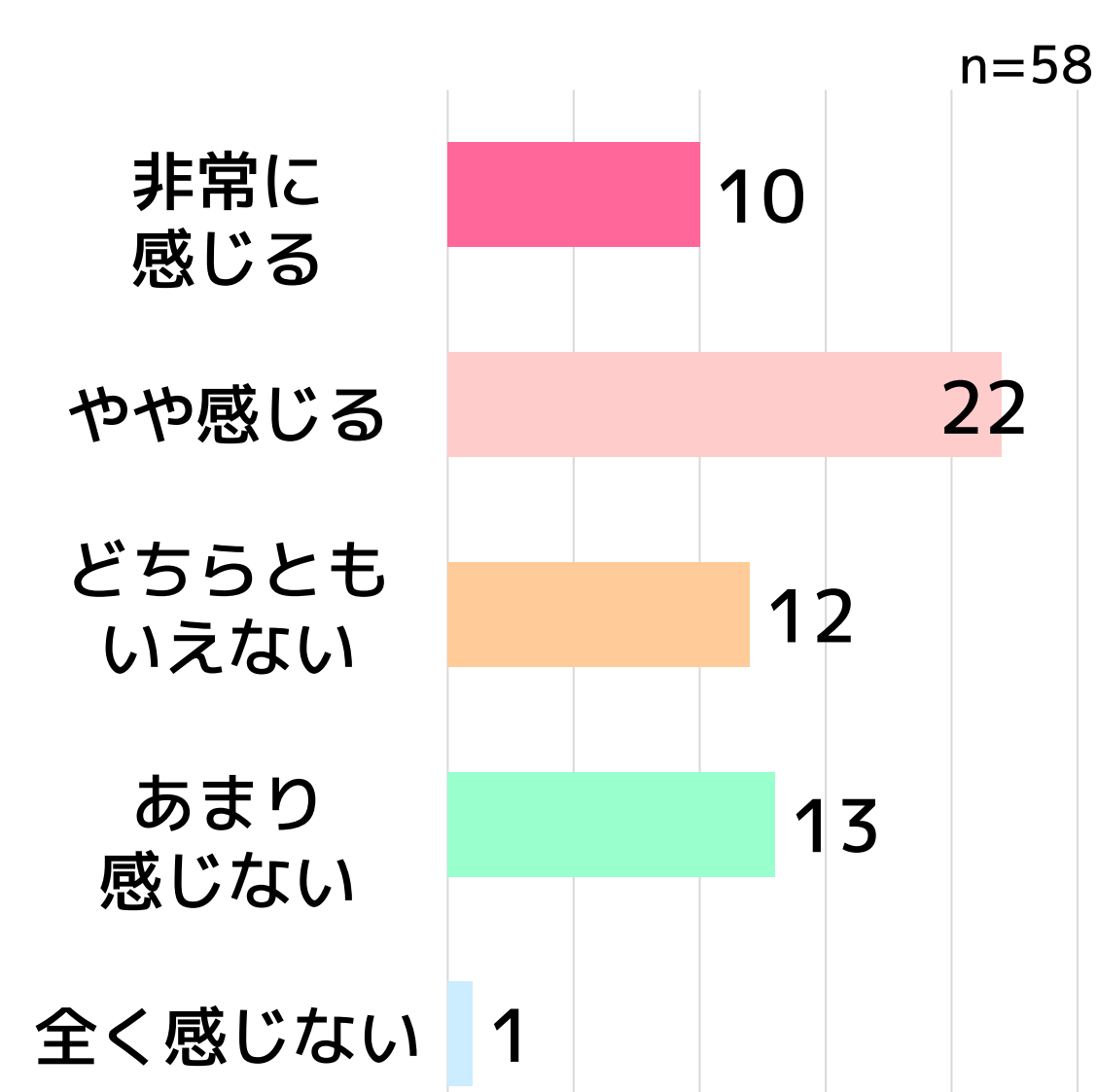
研修の理解度



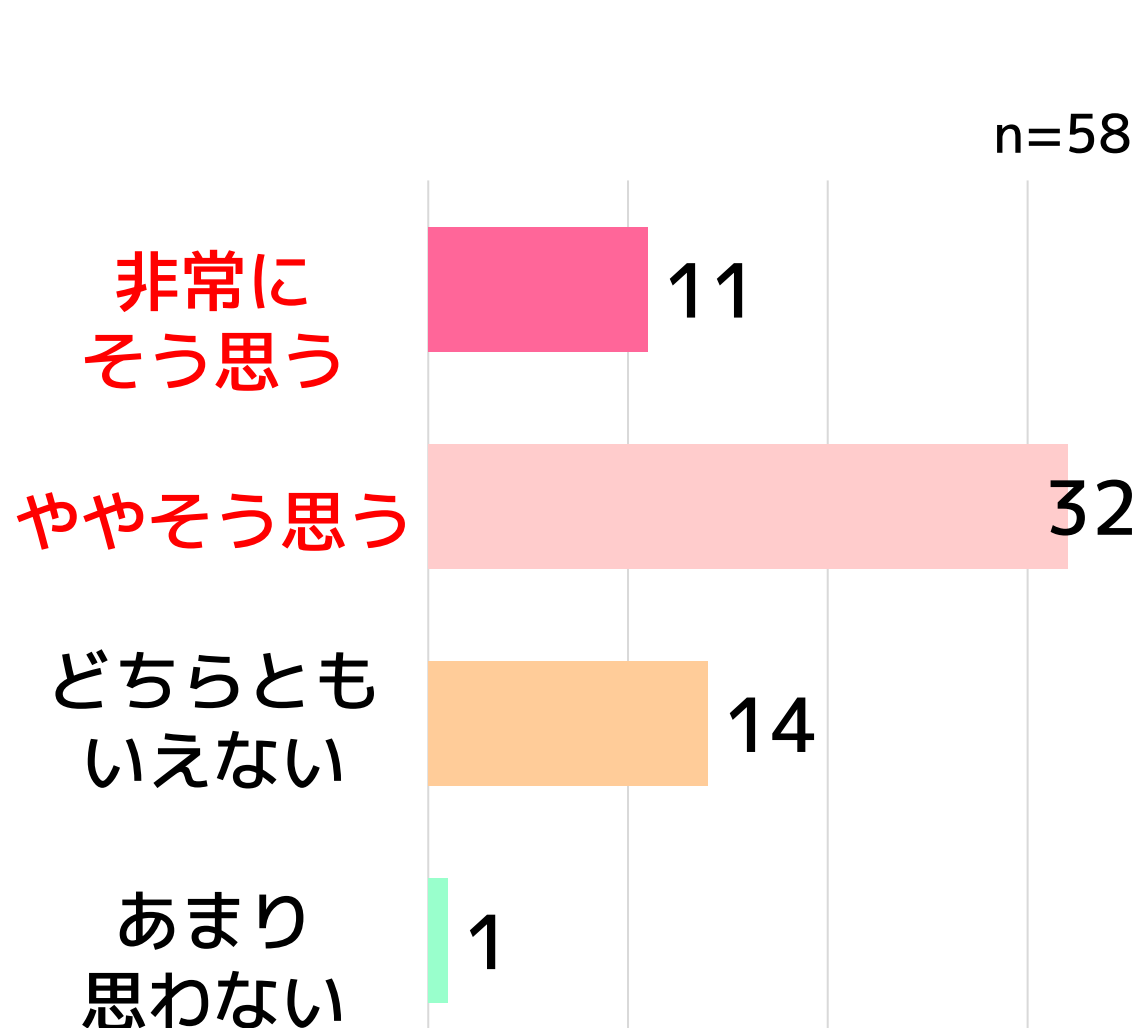
薬局薬剤師におけるサマリー送付の課題



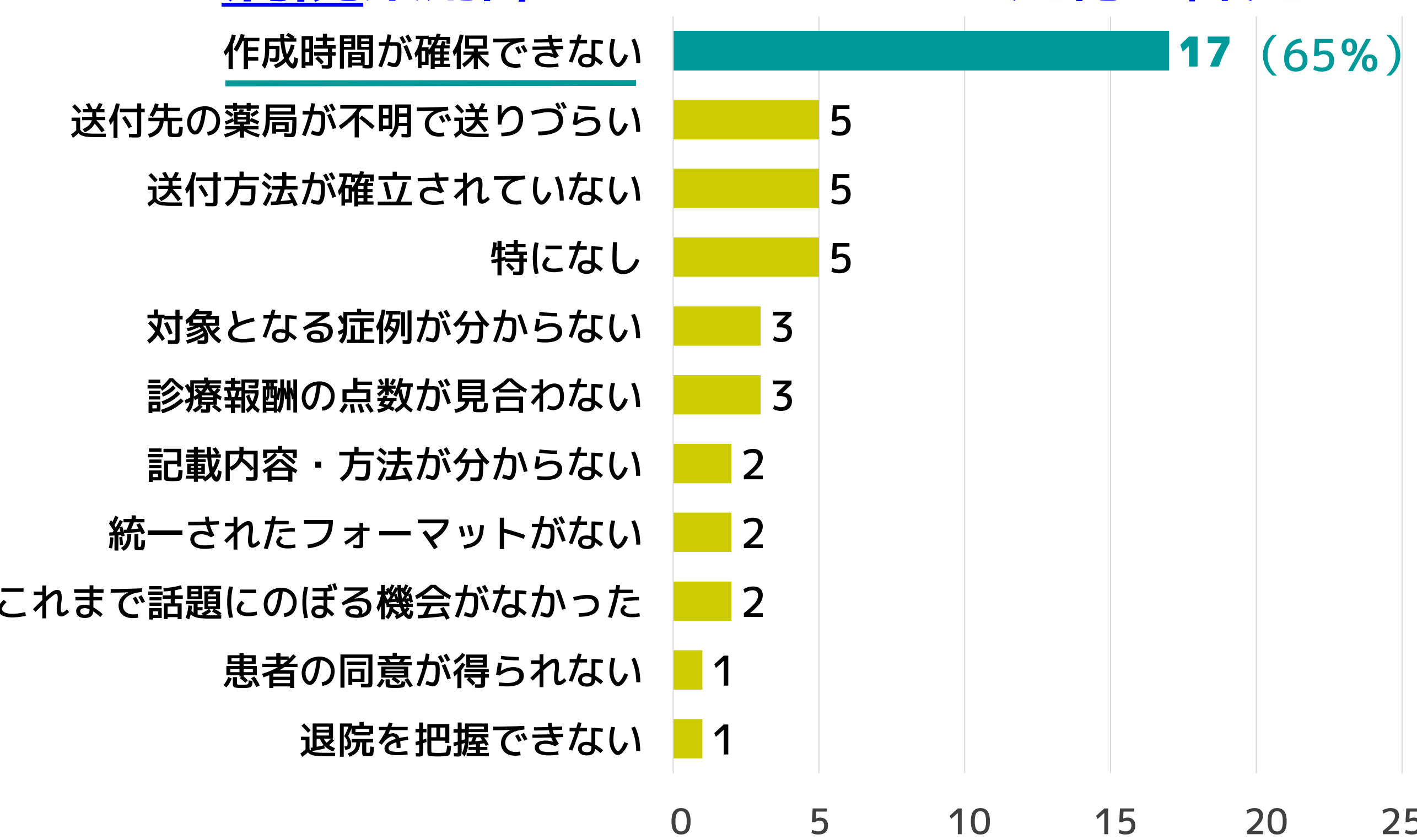
サマリーの送付はハードルが高いと感じるか？



サマリーを今後送付可能と思うか？



病院薬剤師におけるサマリー送付の課題



考察

研修参加者が100名を超えたことは初めてであり、有益だったとの回答が多かったため反響は大きかった。薬局薬剤師のサマリー送付経験は少なかったが、研修後に送付可能と感じた者は多かった。これは研修により入院時サマリーの理解が深まり、認知度が上がったことが要因と考えた。病院薬剤師は運用面より作成時間が課題と感じていたのに対し、薬局薬剤師は運用面を含む複数の因子を課題と感じていた傾向が明らかになった。研修後も薬局薬剤師のサマリー送付に対するハードルは高いことから、これらの課題解決が入院時の薬薬連携推進には重要と考える。今後、サマリーの書き方に関する研修開催、地域での運用検討・雛形決定により課題解決に努めていきたい。

第1回 旭・瀬谷地区薬薬連携研修会（入退院連携） ～入退院薬剤情報サマリーを利用した薬薬連携の取り組み～ 【プログラム】	
講演① 横浜旭中央総合病院における退院時薬剤情報サマリー	横浜旭中央総合病院薬剤部 関口佑子 先生
講演② 入院時に薬局が行う薬剤管理サマリー（服薬情報等提供料2,3）	なの花薬局さちが丘店 服部裕吾 先生
講演③ 聖マリアンナ西部病院における退院時サマリー	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院薬剤部 小山なつの先生
講演④ 総合討論：旭区瀬谷区における入退院連携を強化するには？	なの花薬局さちが丘店 服部裕吾 先生 えがお薬局三ツ境店 泉和孝 先生 横浜旭中央総合病院薬剤部 関口佑子 先生 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院薬剤部 小山なつの先生 神奈川県立がんセンター薬剤科 齊藤太紀 先生

神奈川県薬剤師会学術フォーラム

演題：入院時・退院時薬剤管理サマリーに関する薬薬連携研修
からみた入退院連携の実態・課題：アンケート調査

所 属：横浜市旭区薬剤師会

発表者：服部 裕吾

既に申告したように、本演題発表に関連して、
開示すべき COI 関連にある企業等はありません